

# 環境との関わり

事業活動を通じ、資源の有効利用や環境に配慮した製品・技術を提供することで環境課題の解決に貢献していきます

## 環境方針

私たちは地球環境保護への取組みとして、地域を汚染から守り、資源の枯渇に配慮し、社会から信頼される会社を目指します。

- 1 法律や倫理に対して誠実な対応を行い、社会から信頼される会社を目指します
- 2 「もったいない」気持ちを大切に資源の有効利用を目指します
- 3 当社の環境技術により、住みたい街づくりに貢献します

## 環境マネジメントシステム

環境保全の取り組みを推進するため、ISO14001に基づく環境マネジメントシステム(P.9参照)を構築し、社長をトップに全店管理責任者が本支店の全部門を統括し運用しています。

本支店の各部門および各部署では中期経営計画の策定において、現場では工事着手前に実施する施工検討会において、事業活動で予測される環境影響を事前に評価することで、取り組むべき環境目標を決定します。環境目標は、定期的に確認・分析・評価することでマネジメントシステムの有効性を検証します。

## 気候変動への対応

当社では燃料として重油を使用しているアスファルト混合所において、CO<sub>2</sub>排出量が約2割少ない都市ガスへの切り替えや太陽光発電設備を設置することで環境負荷低減を積極的に推進しています。また、施工現場においてもICT導入による作業効率化を推進し、CO<sub>2</sub>排出の抑制に努めています。



ガス燃料の使用や周辺環境へ配慮した最新鋭の設備を備える東条アスファルト混合所

### 環境データ(工事部門は含まない)

#### ● エネルギー使用量(原油換算) (単位：kℓ)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
オフィス部門	826	826	788	789	730
合材部門	24,176	22,396	20,538	19,774	21,514
クラッシング部門	1,899	1,949	1,816	1,689	1,695
合計	26,901	25,171	23,142	22,252	23,939

#### ● CO<sub>2</sub>排出量 (単位：t-CO<sub>2</sub>)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
オフィス部門	1,831	1,753	1,690	1,664	1,474
合材部門	59,524	54,974	49,087	48,076	50,049
クラッシング部門	4,494	4,779	4,255	3,616	3,661
合計	65,849	61,506	55,032	53,356	55,184

#### ● CO<sub>2</sub>排出原単位

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
オフィス部門 (t-CO <sub>2</sub> /千m <sup>2</sup> ： 延床面積)	31	31	30	31	31
合材部門 (t-CO <sub>2</sub> /千t： 生産数量)	1,703	1,515	1,290	1,390	1,468
クラッシング部門 (t-CO <sub>2</sub> /千t： 廃材受入数量)	1,436	1,287	1,149	1,243	1,337



## 建設副産物および廃棄物の適正処理

### 基本方針

全ての事業場において廃棄物処理法・リサイクル関連法等を遵守し、建設副産物の発生抑制、再生利用及び再資源化を促進すると共に、建設副産物を適正処理する。

### 基本目標

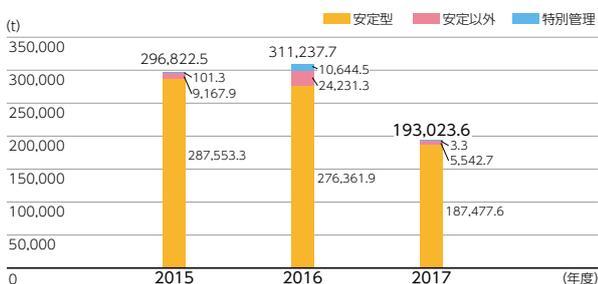
- 1 「建設副産物適正処理要綱」に基づき、管理体制を確立、維持し不適正処理を防止する
- 2 事業系一般廃棄物の発生を抑制すると共に、分別により再生資源のリサイクルを推進する
- 3 積極的な再生品(アウトレット等)利用によりリサイクル率を向上させる

建設発生土やコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊などの建設副産物を適正に処理するため、施工計画検討会で取り組むべき重点項目を決定し実施しています。当社従業員や協力会社の事業主に対して適切な処理について教育を実施しているほか、処理業者の選定にあたっては処理能力や保管場所などの確認を行った上で業務を委託するなど、不適正処理の防止に努めています。

建設副産物の分別・保管・再生化処理の状況は、所管部が定期的に現場を訪問する安全パトロールによって確認しています。また、電子マニフェストの導入により、事務処理の効率化を図っています。

事業所で発生する一般廃棄物は、分別を徹底し、事務用品は可能な限り環境対応商品を購入、紙の使用も削減に努めています。

#### ● 産業廃棄物年間総量



## 大気汚染の防止

アスファルト合材を製造する過程において、大気汚染物質(粉じん、ばいじん、SOx、NOx)を排出することから、排出状況の管理や処理設備の設置を行い、排出抑制に努めています。2017年度、法定基準以上の排出はありませんでした。また悪臭対策として脱臭装置などにより、周辺的生活環境の保全に取り組んでいます。

## 環境配慮技術

熱環境改善工法の一つである保水性舗装「ハイシールM」は、ポーラスアスファルト舗装(排水性舗装)の空隙に特殊なセメントミルクを充填することで、雨水や打ち水を舗装体内に保水します。夏場の路面温度が上昇する際は、舗装体内の水分が蒸発し、水の気化熱により路面の温度上昇を抑制する機能を持つ舗装です。一般的なアスファルト舗装と比較し路面温度を最大で15℃程度下げることができます。

「ハイシールM」を改良し、古い街並みなどの景観に配慮したデザインを可能とした保水性舗装「涼量」は、ショットブラストと目地切りの工法により路面を御影石調・石畳風に仕上げます。趣のある歩行空間の演出に活躍しています。

歩行者空間や沿道の環境負荷低減に貢献し、路面温度の上昇によるヒートアイランド現象の緩和に大きな効果を見込むことのできる、環境配慮技術の研究開発に今後も取り組んでいきます。



「涼量」で舗装した路面